

ねがひ



令和8年5月11日 発行

～「1秒の想像」を合言葉に～

これまでの子どもたちの登下校の様子を見ていると、冬ならではの雪玉投げや、落ちている枝を剣のように振り回して歩く姿、あるいは何気なく物を投げてしまう場面が見受けられます。

子どもたちにとっては「楽しい遊び」の一つかもしれませんが、一步間違えれば、自分や大切な友達が怪我をしてしまうかもしれません。また、怪我をさせた側も、そのご家族も、深い悲しみに包まれることになります。

そこで、全校集会と各学級で、登下校の安全についてあらためて話し合いを行いました。キーワードとしたのは、「1秒の想像」という言葉です。

「これを投げたら、どうなるかな?」「枝を振ったら、後ろの人は怖くないかな?」
たった1秒、立ち止まって未来を想像する。その「心の余裕」が、自分とお友達の笑顔を守る一番の力になることを伝えました。

それぞれの学級では、この「1秒の想像」を合言葉に、具体的にどんなことに気をつけていけばよいか、活発な話し合いが行われました。

保護者の皆様へのお願い

学校では、今回のような話し合いを「一度きりの指導」にせず、子どもたちが自ら気づき、考えて行動できるまで、粘り強く見守っていきたいと考えています。ご家庭でも、「今日の帰り道、1秒の想像できた?」と、前向きな言葉で声をかけていただければ幸いです。

みんなが「笑顔でただいま!」と言える帰り道を、学校と家庭、そして地域の皆様と共につくっていただければと思います。ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

安全を守る「1秒の想像」：学年ごとの取り組み

全校で「1秒の想像」をキーワードに、危険回避と互いを思いやる心を育てる指導

全学年共通：やる前に「1秒」想像する



低学年：危ない遊びを「1秒」止める

石投げや傘の振り回しが、取り返しのつかない怪我や責任につながることを学びます。



中学年：自分の行動と声掛けを振り返る

事故が起きてからでは遅いことを理解し、喧嘩を防ぐための言葉選びを話し合います。



高学年：見守り、声を掛け合う

自分の行動に責任を持つだけでなく、下級生へのアドバイスや大人への相談を実践します。

学級での対話と子どもたちの決意

1	<p>「自分の体と命は自分で守ろう」</p> <p>「良いこと・悪いこと」を自分たちで考えました。怪我をしない・させないために、落ち着いて歩くことを約束しました。</p>
2	<p>「家族の気持ちを想像して」</p> <p>棒を振ったり物を投げたりすることが、家族の人をどれだけ悲しませるかを話し合いました。困った時はすぐに先生に相談することも確認しました。</p>
3	<p>「寄り道せず、まっすぐ帰ろう」</p> <p>想像する力があるのだから、それを使おう！と話し合いました。危ないことをしている人を見かけたら、声をかけて止める勇気も大切にしていきます。</p>
4	<p>「事故が起きてからでは遅い」</p> <p>「自分はできているかな？」と振り返りました。トラブルを防ぐための「ナイスな声かけ」についてもアイデアを出し合いました。</p>
5	<p>「理由を考え、大人にも相談」</p> <p>なぜ危険なのかを深く考えました。自分たちが気をつけるのはもちろん、周囲の状況に応じて大人に相談することも一つの勇気だと確認しました。</p>
6	<p>「下級生の守り手になろう」</p> <p>最高学年として、危険なものには触らない。そして、危ないことをしている下の学年の子がいたら、優しく教えてあげられる姿を目指します。</p>

